



令和5年度 きらめき未来塾 お笑い道場

講師 社会人落語家・安野家仁楽齋(フリーアナウンサー牧内直哉氏)

参加者 小学4～6年生 16人



お笑い道場では、落語の基本を学び、こばなしや大喜利に取り組んでいます。今回の参加者はこばなしに初挑戦する子から、こばなしでは物足りず、より話の長さがある落語に取り組む子まで様々でした。それぞれの課題や目標は異なるものの、発表会に向けてみなが努力し、表現力や創造力を養うことができました。

第1回 高座(舞台)で自己紹介しよう



落語の基本を説明

落語の基本を学ぶ(高座での作法、扇子や手ぬぐいの使い方、こばなし・大喜利の説明)

先生が最初に自己紹介をされ、高座での作法、扇子や手ぬぐいの使い方などを習いました。続けて、子どもたちも高座に上がり、自己紹介をして、扇子と手ぬぐいを筆やラケット、皮むきなどに見立て、自由に表現しました。



扇子や手ぬぐいで自由に表現

第2回 こばなしや大喜利のおけいこで自分を表現しよう

高座名「人創亭(ひとづくりてい)〇〇」の発表、高座でこばなしに挑戦

子どもたち一人一人の趣味や夢などをもとに先生が考えられた「高座名」がみんなに発表されました。将来の夢は「歌のお兄さん」のA君は「人創亭 歌朗(うたろう)」、わらびもちが好きなBさんは「人創亭 笑美(わらび)」など、いずれも個性的です。



高座名の発表

高座名をもらった子どもたちは、こばなしに挑戦しましたが、緊張で表情が硬く、セリフが飛んだりしました。先生からは「台本通りでなくてもよいこと」、「顔の向きを登場人物で分けること」、「手ぬぐいや扇子を使った仕草」などのアドバイスを頂きました。



こばなしの指導風景

第3回 おけいこの成果を確認して楽しもう

大会に向けてこばなし、大喜利に磨きをかける

早速、こばなしから練習です。流れを止めずに演じられるようになり、声に張りも出てきました。登場人物で、顔の向きを変えたり声色を意識したりと、練習の成果が出ています！大喜利も手を挙げて発表する子が増え、活気が出てきました！大会に向けて、先生からさらにアドバイスがあり、子どもたちにもいいものにしようという表情が見られました。



大喜利は楽しめるように

仲間の発表も発想のヒントにしていた

第4回 お笑い大会(発表会)

落語家になり切る！大きなホールで堂々と発表

発表会に臨んだ子供たちは堂々と演じ切り、会場は拍手喝さいに沸きました。こばなしでは仕草や間の取り方なども上達し、大喜利でも発想力のある発言に会場から感嘆する声が上がりました。また、子供たち同士でマイクを譲り合う「連携プレー」が微笑ましく映りました。



堂々と演じたこばなし

修了笑書の授与、笑顔で記念撮影

最後に先生から『修了笑書』が授与され、参加者全員で記念撮影をしました。やり遂げた子どもたちの表情には、達成感や満足感があふれていました。



修了笑書の授与



盛り上がった大喜利



笑顔で記念撮影